持続可能な森を目指して
被害前の状態
平成16年の台風被害
倒木の撤去作業
平成20年時点の状態
現在
私たちは今、「持続可能な生活を可能とする自然との共生」が求められています。
現在、外材と国内材の価格差は大きく、国内の森林を伐採し搬出しても、再植林の費用すら残らないと言われています。この状況で放置された人工林は、木々が密集しお互いの成長を妨げる「暗い森」になってしまいました。「暗い森」は、もはやCo2の吸収源ではなく、「光合成で吸収するCo2量より、呼吸で排出するCo2量の方が多い」放出経過体になります。
最近の学説では、日本の森は計画的に手入れして切らなければ、逆に、木の能力が充分に発揮出来ないといわれています。つまり、昔の人が行なってきた伐採→植栽→下草刈り→枝打ち→間伐→成林→伐採（徹底的な利用）→植林というサイクルは実に理にかなっていたのです。この場所ではその森林サイクルの復活を目指しています。
植栽
下草刈り
枝打ち
間伐
成林
中国銀行